



## 乳癌患者さんの 治療費の現状

札幌市医師会厚別区支部  
新札幌恵愛会病院

福井里佳

近年、癌患者さんの治療費の高騰が問題となっておりますが、具体的にどの程度の負担がかかっているのか、例として乳癌患者さんにかかわる医療費についてご紹介したいと思います。

まずは乳癌検診についてですが、札幌市の乳癌検診は、40歳以上の偶数歳に受けられるもので、40代は1,800円、50歳以上は1,400円です。内容はマンモグラフィーと触診で、40代はマンモグラフィー2方向、50歳以上は1方向です。この検診は、40歳、45歳、50歳…と5歳きざみで無料クーポンが配布されています。札幌市の検診にあてはまらない方は、それぞれの医療機関でドックがありますので、それを受けていただくことになります。当院では検診内容により、7,350円（触診、マンモグラフィー、超音波）、5,250円（触診、マンモグラフィー）、4,200円（触診、超音波）の3パターンを設定しております。

次に、乳癌と診断された後の治療費について、閉経後乳癌で標準体型、3割負担の患者さんと仮定しての窓口負担額をおおまかに書きたいと思います。乳癌の手術は当院では7～10日間の入院で25万円前後です。術式によって若干差があります。乳房温存手術（部分切除）の場合は術後の放射線治療が必要となりますが、それは一連の治療（6～8週間）でだいたい9～12万円程度です。その後、病理検査の結果により術後の補助療法を決めます。

補助療法としてはホルモン療法、化学療法、分子標的薬があり、ホルモン療法はホルモンレセプター陽性の乳癌、分子標的薬はHer2レセプター強発現乳癌のみに行います。ホルモン療法であれば年間6万円程度で、通常は5年間継続します。化学療法であれば、使用する薬剤にもよりますが、1クール（4週間）1万5千円～5万円で6～8クール行います。さらに、分子標的薬のハーセプチンを使う場合は初回約6万円、2回目以降約4万円で3週に1回投与、1年間継続します。また、化学療法を施行する場合は、事前にIVHポートの留置をすることがほとんどで、費用は約4万円です。

以上をまとめますと、診断されてから1年間の一般的な治療費は、60万円前後となる場合が多いようです。ただし、あくまでも治療費（または薬剤）のみの費用で、検査や診察料、指導管理料などは含め

ておりません。また、閉経前の患者さんのホルモン療法は、さらに薬剤が追加になるため、年間約12万円の負担増となります。

次に再発した場合、またはもともと他臓器に転移がある場合は、薬物療法（ホルモン療法、化学療法、分子標的薬）を継続することになります。基本的には術後の補助療法の料金と同じですが、治療の終わりがありません。さらに、骨転移がある場合はビスホスホネート製剤を4週に1回併用します（1回1万5千円程度）。局所やリンパ節の再発、骨転移には放射線治療を行うこともあり、一連の治療で5～10万円程度の費用がかかります。

近年、特に治療費の高騰の原因となっているのが分子標的薬です。癌領域だけではなく広い疾患に用いられており、治療薬としては非常に患者さんに恩恵をもたらしているのも事実です。乳癌領域では、ハーセプチンの他にタイケルブという内服薬があります。これは手術不能または転移性乳癌のみの適応で、内服の抗癌剤との併用で1ヵ月約9万円です。分子標的薬は副作用が少なく、特に転移再発患者さんの場合は中止の指標も無いため、漫然と継続されがちです。使用する側が、効果と費用のバランスを厳しく見極める必要がある薬剤と思われます。

最後に緩和治療についてですが、オピオイドの開始量では、例えばオキシコンチン10mg/dayで28日分処方すると約2,500円、デュロテップMTパッチ2.1mg/3日間で1ヵ月に約10,400円の負担となります。緩和ケア病棟に入院すると定額制で1日11,376円、食費も合わせると1ヵ月で約37万円です。

以上のような医療費負担の軽減処置として、高額療養費制度というのがあります。年齢や所得によって1ヵ月の自己負担限度額が決められており、70歳未満で上位所得者（月収53万円以上）では15～17万円、一般所得者では8～10万円、低所得者は35,400円となっております。また、自己負担限度額を超える月が1年間に4回以上あれば（多数該当）、4回目以降の自己負担限度額はさらに引き下げられます。

以上、非常におおざっぱですが、ご参考になれば幸いです。これ以外に、交通費、下着やかつらなど、医療以外の出費ももちろんあります。いくら高額療養費制度があっても非常に負担が大きく、私でも不安です。やはり早期に見つかるのに越したことはなく、検診やドックにお金をかけるのが結局は安上がりだと再認識しました。